

北海道観光入込客数調査報告書

平成22年度

平成23年11月

北海道経済部観光局

北海道観光入込客数調査の内容と留意事項

1 北海道観光入込客数調査について

本調査は、観光庁が定めた「観光入込客統計に関する共通基準」に準じて道が改正した「北海道観光入込客数調査要領」に基づき、観光入込客数などを推計したもので、平成22年度から新方式により実施しています。

2 調査内容

(1) 観光入込客数（実人数）

市町村が行う観光地点等入込客数調査、道が行う観光地点パラメータ調査及び観光庁が提供する宿泊観光入込客数などのデータなどにより推計した北海道における観光入込客の実人数

実人数：1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合でも、1人と数えます。

なお、訪日外国人来道者数（実人数）については、日本政府観光局（JNTO）の訪日外客数や訪日外客訪問地調査などにより推計した北海道を訪れた外国人の実人数

(2) 観光入込客数（延べ人数）

各市町村の観光入込客数を集計した観光入込客数の延べ人数

延べ人数：市町村の実人数の単純合計

（1人の観光客が1回の旅行で、5市町村を訪問している場合は、5人と数えます。）

(3) 観光消費額単価

観光地点パラメータ調査により、道内客、道外客、外国人について、「観光」、「ビジネス兼観光」別に推計した観光消費額単価

3 利用上の留意事項

各数字は、四捨五入のため合計が合致しない場合があります。

I 観光入込客数（実人数）

1 概況

平成22年度の観光入込客数の総数（実人数）は、5,127万人となりました。

5月の連休の日並びの良さと好天、6月のAPEC貿易担当大臣会合の開催、12月の東北新幹線の新青森駅までの開業などのほか、前年度に流行した新型インフルエンザの影響がなかったことなどの増加要因があった一方で、4月に宮崎県で発生した口蹄疫の影響によるイベントの中止や、夏季の猛暑と週末の悪天候、前年9月にあった大型連休が無かったことなどの減少要因に加え、平成23年3月11日に発生した東日本大震災による国内外の観光需要の落ち込みなどもあり、前年度と比較（以下、前年度との比較については、旧方式等により算出しています。）すると、99.1%と0.9%の減少となりました。

2 道内容・道外客・外国人別

道内容・道外客・外国人別にみると、道内容は4,532万人、道外客は521万人、外国人が74万人となり、構成比では、道内容が88.4%、道外客が10.2%、外国人が1.4%となっています。

3 日帰り客・宿泊客別

日帰り客・宿泊客別にみると、日帰り客は3,597万人、宿泊客は1,531万人となり、構成比では、日帰り客が70.1%、宿泊客が29.9%となっています。

4 四半期別

四半期別にみると、第1四半期が1,480万人（構成比28.9%）、第2四半期が2,004万人（同39.1%）、第3四半期が769万人（同15.0%）、第4四半期が874万人（同17.0%）となっています。

<平成22年度 観光入込客数（実人数）>

区 分	日帰り客	宿泊客	計	構成比	
第1四半期 (4~6月)	道内容	1,113万人	234万人	1,346万人	91.0%
	道外客	1万人	119万人	120万人	8.1%
	外国人	—	14万人	14万人	0.9%
	計	1,114万人	367万人	1,480万人	100.0%
第2四半期 (7~9月)	道内容	1,516万人	269万人	1,786万人	89.1%
	道外客	8万人	185万人	193万人	9.6%
	外国人	—	25万人	25万人	1.2%
	計	1,525万人	479万人	2,004万人	100.0%
第3四半期 (10~12月)	道内容	421万人	224万人	645万人	83.9%
	道外客	1万人	109万人	109万人	14.2%
	外国人	—	15万人	15万人	1.9%
	計	422万人	348万人	769万人	100.0%
第4四半期 (1~3月)	道内容	534万人	221万人	755万人	86.4%
	道外客	3万人	96万人	99万人	11.3%
	外国人	—	20万人	20万人	2.3%
	計	537万人	337万人	874万人	100.0%
合 計	道内容	3,584万人	949万人	4,532万人	88.4%
	道外客	13万人	509万人	521万人	10.2%
	外国人	—	74万人	74万人	1.4%
	計	3,597万人	1,531万人	5,127万人	100.0%

5 訪日外国人来道者数（実人数）

(1) 概況

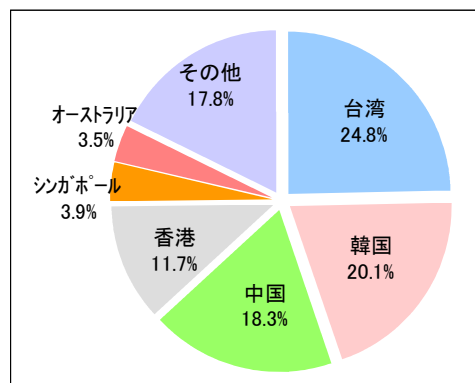
平成22年度の訪日外国人来道者数は、世界的な景気の後退や新型インフルエンザの流行により減少した前年度と比較して、順調に景気が回復したアジア地域を中心に訪日旅行需要が上向き、第3四半期までは前年度比132.4%と増加しましたが、東日本大震災が発生した3月11日以降大幅に減少し、通年では74万1,700人で前年度比113.0%となりました。

(2) 国・地域別

本道観光の主要市場であるアジア地域からの来道者は62万4,100人で、前年度に対し117.0%と増加しました。

国・地域別で見ると、台湾が18万3,700人（前年度比109.3%）と最も多く、次いで、韓国が14万8,900人（同121.9%）、中国が13万5,500人（同127.6%）、香港が8万7,100人（同101.0%）、シンガポールが2万8,800人（同107.9%）、オーストラリアが2万5,600人（同75.5%）の順となっています。

なお、来道者数の多い主要な各国別の特徴は次のとおりです。



台湾	国内景気が順調に回復し訪日旅行需要が上向いたことに加え、直行便の機材が大型化された（6～8月）ことなどを受け、第3四半期までは前年度比18%の増加でしたが、大震災以降大きく減少し、通年では前年度比9%の増加となりました。
韓国	国内景気が順調に回復し訪日旅行需要が上向いたことに加え、直行定期便の増便やチャーター便が多数運航されたことなどが好影響となり、第3四半期までは前年度比43%の大幅な増加でしたが、大震災以降大きく減少し、通年では前年度比22%の増加となりました。
中国	引き続き国内の好調な経済成長に加え、7月に訪日個人観光ビザの発給要件が緩和されたことなどが好影響となり、第3四半期までは前年度比86%の大幅な増加でしたが、9月の中国漁船衝突事件の影響で10月以降伸びが鈍化したことや、大震災以降大きく減少したことから、通年では前年度比28%の増加となりました。
香港	国内景気が順調に回復し訪日旅行需要が上向いたことに加え、直行定期便の増便などにより、第3四半期までは前年度比13%の増加でしたが、大震災以降大きく減少し、通年では前年度と同程度となりました。
シンガポール	国内景気が順調に回復し訪日旅行需要が上向いたことなどから、第3四半期までは前年度比52%の増加でしたが、大震災以降大きく減少し、通年では前年度比8%の増加となりました。
オーストラリア	訪日来道者数の大部分を冬季における来道者が占めていることから、大震災の影響により通年で前年度比25%の減少となりました。

<平成22年度 訪日外国人来道者数(実人数)>

(単位:人)

区 分		中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	小計
第1四半期 (4~6月)	22年度	20,200	32,900	37,900	15,700	6,500	4,700	2,700	120,600
	21年度	9,800	18,300	29,600	14,900	5,300	400	3,100	81,400
	前年同期比	206.1%	179.8%	128.0%	105.4%	122.6%	1175.0%	87.1%	148.2%
第2四半期 (7~9月)	22年度	40,200	57,100	65,800	31,600	9,900	7,400	7,500	219,500
	21年度	17,700	38,000	50,800	22,300	5,900	2,500	3,800	141,000
	前年同期比	227.1%	150.3%	129.5%	141.7%	167.8%	296.0%	197.4%	155.7%
第3四半期 (10~12月)	22年度	32,100	21,000	40,200	17,700	8,000	2,100	1,000	122,100
	21年度	22,100	21,200	41,200	20,200	4,900	4,800	1,400	115,800
	前年同期比	145.2%	99.1%	97.6%	87.6%	163.3%	43.8%	71.4%	105.4%
第4四半期 (1~3月)	22年度	43,000	37,900	39,800	22,100	4,400	7,500	7,200	161,900
	21年度	56,600	44,600	46,500	28,800	10,600	3,500	4,800	195,400
	前年同期比	76.0%	85.0%	85.6%	76.7%	41.5%	214.3%	150.0%	82.9%
合 計	22年度	135,500	148,900	183,700	87,100	28,800	21,700	18,400	624,100
	21年度	106,200	122,100	168,100	86,200	26,700	11,200	13,100	533,600
	前年同期比	127.6%	121.9%	109.3%	101.0%	107.9%	193.8%	140.5%	117.0%

区 分		ロシア	米国	カナダ	オーストラリア	その他	合計
第1四半期 (4~6月)	22年度	2,600	3,400	1,600	2,600	7,600	138,400
	21年度	900	6,100	2,000	2,200	6,900	99,500
	前年同期比	288.9%	55.7%	80.0%	118.2%	110.1%	139.1%
第2四半期 (7~9月)	22年度	3,700	6,200	3,200	2,300	14,700	249,600
	21年度	2,900	5,700	2,500	2,600	12,100	166,800
	前年同期比	127.6%	108.8%	128.0%	88.5%	121.5%	149.6%
第3四半期 (10~12月)	22年度	2,300	4,100	2,600	2,200	15,700	149,000
	21年度	2,500	6,100	1,700	3,300	9,900	139,300
	前年同期比	92.0%	67.2%	152.9%	66.7%	158.6%	107.0%
第4四半期 (1~3月)	22年度	2,700	7,500	1,900	18,500	12,200	204,700
	21年度	3,100	5,300	3,400	25,800	17,900	250,900
	前年同期比	87.1%	141.5%	55.9%	71.7%	68.2%	81.6%
合 計	22年度	11,300	21,200	9,300	25,600	50,200	741,700
	21年度	9,400	23,200	9,600	33,900	46,800	656,500
	前年同期比	120.2%	91.4%	96.9%	75.5%	107.3%	113.0%

※新方式により算定し直した数値です。

<外国人来道者数(実人数)の推移>

(上段:人数(人)、下段:前年度比(%))

国名等	平成20年度		平成21年度		平成22年度		
		うち上期		うち上期		うち上期	
ア	中国	52,000	26,500	106,200	27,500	135,500	60,400
		90.8%	91.1%	204.2%	103.8%	127.6%	219.6%
		114,800	76,900	122,100	56,300	148,900	90,000
		85.9%	111.8%	106.4%	73.2%	121.9%	159.9%
ジ	台湾	278,000	168,300	168,100	80,400	183,700	103,700
		92.2%	109.7%	60.5%	47.8%	109.3%	129.0%
		114,800	64,100	86,200	37,200	87,100	47,300
		127.8%	160.3%	75.1%	58.0%	101.0%	127.2%
ア	シンガポール	29,900	13,700	26,700	11,200	28,800	16,400
		103.8%	120.2%	89.3%	81.8%	107.9%	146.4%
		12,900	6,100	11,200	2,900	21,700	12,100
		104.9%	117.3%	86.8%	47.5%	193.8%	417.2%
ア	マレーシア	12,700	6,700	13,100	6,900	18,400	10,200
		169.3%	186.1%	103.1%	103.0%	140.5%	147.8%
		13,900	7,400	9,400	3,800	11,300	6,300
		97.2%	102.8%	67.6%	51.4%	120.2%	165.8%
ア	米国	22,900	12,300	23,200	11,800	21,200	9,600
		115.1%	119.4%	101.3%	95.9%	91.4%	81.4%
		7,400	3,700	9,600	4,500	9,300	4,800
		104.2%	115.6%	129.7%	121.6%	96.9%	106.7%
ア	カナダ	30,400	15,100	33,900	4,800	25,600	4,900
		100.0%	114.4%	111.5%	31.8%	75.5%	102.1%
		54,700	29,300	46,800	19,000	50,200	22,300
		100.0%	107.7%	85.6%	64.8%	107.3%	117.4%
ア	オーストラリア	744,400	430,100	656,500	266,300	741,700	388,000
		98.3%	115.4%	88.2%	61.9%	113.0%	145.7%
		744,400	430,100	656,500	266,300	741,700	388,000
		98.3%	115.4%	88.2%	61.9%	113.0%	145.7%

※新方式により算定し直した数値です。

Ⅱ 観光入込客数（延べ人数）

1 総数

平成22年度の全道179市町村における観光入込客数（実数）を合計した総数（延べ人数）は、1億2,879万人で、前年度の98.4%（211万人減）と減少となりました。

また、宿泊客延べ数の合計は、2,991万人泊で、前年度の96.9%（95万人泊減）と減少となりました。

2 圏域別

圏域別の観光入込客数（延べ人数）を見ると、オホーツク圏が前年度比105.8%、道南圏が同102.3%と増加し、十勝圏が同100.4%、釧路・根室圏が同99.9%とほぼ前年並みとなり、道央圏が同96.5%、道北圏が同98.8%と減少しました。

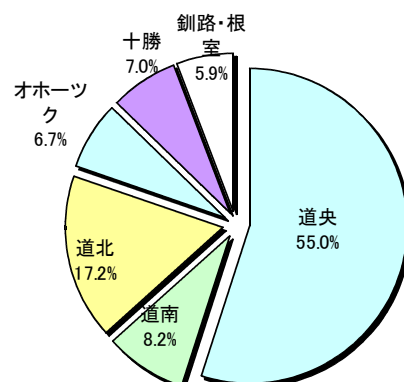
また、宿泊客延べ数では、オホーツク圏が101.3%と増加しましたが、その他の圏域では減少しました。

なお、各圏域の特徴は次のとおりです。

道央圏	千歳・支笏湖氷濤まつりがメディアに大きく取り上げられたことや、洞爺湖温泉100周年記念のイベント開催などによる増加要因はあったものの、夏季の猛暑と週末の悪天候による入込客の減少、冬季の積雪の遅れによるスキー客の減少などに加え、3月の大震災の影響により減少しました。
道南圏	桜の開花の遅れに加え、3月の大震災の影響による減少要因はあったものの、4月の江差山車会館オープン、6月のJRA函館競馬場リニューアルオープン、7月の箱館奉行所オープンなど新たな観光施設の開業効果や、12月に東北新幹線が新青森駅まで開通したことなどにより増加しました。
道北圏	4月のフラノマルシェのオープンや、2月の旭川冬まつりの好調、平成21年10月の道東道占冠・トマム間の開通効果などの増加要因はあったものの、旭山動物園の入園者の減少などに加え、3月の大震災の影響により減少しました。
オホーツク圏	流氷まつり期間中の悪天候などに加え、3月の大震災の影響による減少要因はあったものの、知床世界自然遺産登録5周年事業、網走監獄のリニューアル、メルヘン観光交流センター（大空町）の6月オープン、高速道路無料化などにより増加しました。
十勝圏	花畑牧場（中札内村）の入込客数減少や、8月のバルーンフェスティバル（上士幌町）の中止などに加え、3月の大震災の影響による減少要因はあったものの、8月の「とかちむら」（帯広市）のオープン、高速道路無料化などの増加要因があり、ほぼ前年並みとなりました。
釧路・根室圏	関西・名古屋からの直行便の運休や、機材の小型化による道外からの団体ツアー客の減少などに加え、3月の大震災の影響による入込客の減少があった一方、高速道路の無料化や供用区間の延長による利便性向上に伴う入込客数の増加などにより、ほぼ前年並みとなりました。

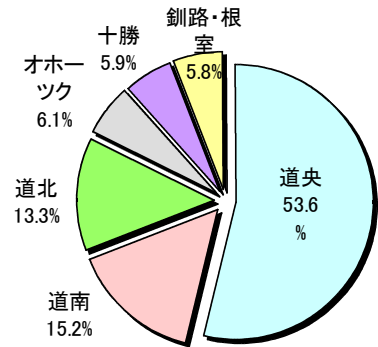
＜観光入込客数（延べ人数）の圏域別構成＞

圏域	観光入込客数	前年度比	増減数	構成比
道央	7,084万人	96.5%	▲259万人	55.0%
道南	1,060万人	102.3%	+24万人	8.2%
道北	2,210万人	98.8%	▲26万人	17.2%
オホーツク	857万人	105.8%	+47万人	6.7%
十勝	903万人	100.4%	+4万人	7.0%
釧路・根室	765万人	99.9%	▲1万人	5.9%
合計	12,879万人	98.4%	▲211万人	100.0%



<宿泊客延べ数の圏域別構成>

圏域	宿泊客延べ数	前年度比	増減数	構成比
道央	1,604万人泊	97.3%	▲44万人泊	53.6%
道南	454万人泊	95.6%	▲21万人泊	15.2%
道北	398万人泊	96.8%	▲13万人泊	13.3%
オホーツク	184万人泊	101.3%	+ 2万人泊	6.1%
十勝	177万人泊	94.6%	▲10万人泊	5.9%
釧路・根室	175万人泊	95.0%	▲ 9万人泊	5.8%
合計	2,991万人泊	96.9%	▲95万人泊	100.0%



3 市町村別

観光入込客数(実人数)を市町村別で見ると、札幌市が1,261万人(前年度比96.9%)で最も多く、次いで、小樽市668万人(同97.2%)、旭川市607万人(同95.4%)、以下、千歳市、函館市、釧路市、登別市の順となっています。

一方、宿泊客延べ数で見ると、札幌市が937万人泊(前年度比98.8%)で最も多く、次いで、函館市404万人泊(同95.7%)、登別市116万人泊(同99.7%)以下、釧路市、帯広市、上川町、北見市の順となっています。

<観光入込客数(実人数)の多い市町村>

順位	市町村名	入込客数	前年度比
1	札幌市	1,261万人	96.9%
2	小樽市	668万人	97.2%
3	旭川市	607万人	95.4%
4	千歳市	489万人	98.8%
5	函館市	459万人	105.9%
6	釧路市	310万人	93.5%
7	登別市	304万人	100.6%
8	喜茂別町	284万人	102.8%
9	洞爺湖町	246万人	89.1%
10	帯広市	238万人	109.4%
11	伊達市	221万人	102.6%
12	上川町	200万人	94.9%
13	富良野市	178万人	90.9%
14	白老町	176万人	91.2%
15	石狩市	172万人	91.3%
16	砂川市	167万人	89.3%
17	苫小牧市	166万人	109.4%
18	七飯町	158万人	95.2%
19	壮瞥町	158万人	99.7%
20	倶知安町	150万人	99.8%

<宿泊客延べ数の多い市町村>

順位	市町村名	宿泊客延べ数	前年度比
1	札幌市	937万人泊	98.8%
2	函館市	404万人泊	95.7%
3	登別市	116万人泊	99.7%
4	釧路市	110万人泊	92.0%
5	帯広市	86万人泊	97.6%
6	上川町	75万人泊	95.4%
7	北見市	71万人泊	106.3%
8	倶知安町	70万人泊	101.3%
9	小樽市	66万人泊	97.0%
10	旭川市	62万人泊	94.2%
11	富良野市	58万人泊	90.2%
12	洞爺湖町	53万人泊	87.7%
13	音更町	46万人泊	92.1%
14	斜里町	44万人泊	97.8%
15	網走市	44万人泊	96.5%
16	二セコ町	39万人泊	99.9%
17	稚内市	37万人泊	97.9%
18	留寿都村	34万人泊	93.2%
19	弟子屈町	30万人泊	95.5%
20	伊達市	30万人泊	91.2%

4 訪日外国人来道者の宿泊延べ数

(1) 国・地域別

平成22年度の訪日外国人来道者の宿泊延べ数は、236万5,000人泊で、前年度比119.5%と増加しました。

国・地域別に見ると、台湾が56万3,000人泊で全体の23.8%を占め最も多く、次いで香港が45万人泊で19.0%、韓国が35万3,000人泊で14.9%、中国が31万6,000人泊で13.4%、以下シンガポール、オーストラリアなどの順となっています。

(2) 圏域別

圏域別に見ると、道央圏が168万6,000人泊と全道の71.3%を占め最も多く、次いで道北圏、道南圏、十勝圏、釧路・根室圏、オホーツク圏の順となっています。

前年度と比較すると、十勝圏域が前年度比139.6%と大きく増加したのをはじめ、他の4圏域でも大きく増加し、釧路・根室圏域はほぼ横ばいとなりました。

〈圏域別訪日外国人来道宿泊延べ数〉

圏域	ア ジ ア								ヨーロッパ
	中国	韓国	台湾	香港	シンガポール	マレーシア	タイ	インド	ロシア
道央	242,360	282,834	318,979	335,653	138,781	43,882	26,218	1,148	11,748
道南	12,622	39,292	89,787	11,457	9,383	4,766	1,671	127	542
道北	30,385	15,085	80,347	57,620	32,803	6,883	7,422	77	1,645
オホーツク	6,957	5,634	11,139	12,988	5,686	1,983	1,345	18	744
十勝	8,263	5,238	39,211	23,464	16,001	4,700	1,586	0	177
釧路・根室	15,562	4,481	24,026	9,224	5,931	2,329	470	63	2,591
全道	316,149	352,564	563,489	450,406	208,585	64,543	38,712	1,433	17,447

圏域	ヨーロッパ			北 米		オーストラリア	その他	計	21年度	対前年比
	イギリス	フランス	ドイツ	アメリカ	カナダ					
道央	11,016	4,782	5,097	33,370	6,144	130,151	94,170	1,686,333	1,417,650	119.0%
道南	314	129	151	2,459	266	670	5,597	179,233	148,769	120.5%
道北	1,140	716	641	2,721	733	12,858	13,681	264,757	215,826	122.7%
オホーツク	163	439	256	1,080	163	639	1,381	50,615	44,224	114.5%
十勝	135	520	124	778	202	9,076	3,598	113,073	80,989	139.6%
釧路・根室	509	341	297	1,315	297	381	3,333	71,150	71,863	99.0%
全道	13,277	6,927	6,566	41,723	7,805	153,775	121,760	2,365,161	1,979,321	119.5%

(3) 市町村別

市町村別に見ると、札幌市が79万8,000人泊（前年度比122.8%）で最も多く、次いで登別市が22万2,000人泊（同124.9%）、倶知安町18万7,000人泊（同111.6%）、函館市15万9,000人泊（同120.9%）、上川町10万4,000人泊（同113.5%）となっています。

【宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	797,515人泊	122.8%
2	登別市	221,524人泊	124.9%
3	倶知安町	187,131人泊	111.6%
4	函館市	159,298人泊	120.9%
5	上川町	103,918人泊	113.5%

【宿泊延べ数の多い上位5カ国・地域】

順位	国名	宿泊延べ数	前年度比
1	台湾	563,489人泊	99.9%
2	香港	450,406人泊	103.3%
3	韓国	352,564人泊	152.8%
4	中国	316,149人泊	131.6%
5	シンガポール	208,585人泊	144.3%

【中国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	133,971人泊	150.5%
2	洞爺湖町	20,789人泊	64.4%
3	登別市	19,563人泊	139.5%
4	壮瞥町	15,527人泊	96.4%
5	釧路市	14,388人泊	111.1%

【韓国の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	119,267人泊	171.0%
2	登別市	76,262人泊	178.2%
3	函館市	25,412人泊	119.1%
4	壮瞥町	22,080人泊	151.1%
5	洞爺湖町	13,365人泊	83.9%

【台湾の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	158,766人泊	96.3%
2	函館市	88,593人泊	120.2%
3	登別市	63,976人泊	80.8%
4	上川町	55,091人泊	104.9%
5	洞爺湖町	33,498人泊	104.1%

【香港の宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	187,522人泊	100.7%
2	倶知安町	35,050人泊	95.5%
3	登別市	32,023人泊	146.2%
4	小樽市	18,796人泊	88.7%
5	富良野市	18,217人泊	128.7%

【シンガポールの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	札幌市	57,992人泊	137.7%
2	上川町	16,285人泊	128.8%
3	登別市	16,014人泊	156.8%
4	倶知安町	15,696人泊	127.4%
5	新得町	13,546人泊	222.4%

【オーストラリアの宿泊延べ数の多い市町村】

順位	市町村名	宿泊延べ数	前年度比
1	倶知安町	99,665人泊	108.5%
2	ニセコ町	11,463人泊	215.1%
3	富良野市	10,146人泊	134.9%
4	札幌市	9,821人泊	130.4%
5	新得町	8,965人泊	228.5%

Ⅲ 観光消費額単価

道内13の観光地点において実施したパラメータ調査により得られた観光消費額単価は、下表のとおりとなっています。

＜平成22年度 観光消費額単価＞

(単位：円)

区 分		日帰り	宿 泊
第1四半期	道内客	観光	20,568
		ビジネス兼観光	24,137
	道外客	観光	65,838
		ビジネス兼観光	22,070
	外国人	観光	81,000
		ビジネス兼観光	106,617
第2四半期	道内客	観光	21,057
		ビジネス兼観光	25,549
	道外客	観光	88,467
		ビジネス兼観光	28,276
	外国人	観光	138,875
		ビジネス兼観光	106,617
第3四半期	道内客	観光	22,096
		ビジネス兼観光	37,055
	道外客	観光	63,043
		ビジネス兼観光	45,462
	外国人	観光	158,250
		ビジネス兼観光	106,617
第4四半期	道内客	観光	20,268
		ビジネス兼観光	18,600
	道外客	観光	76,467
		ビジネス兼観光	64,816
	外国人	観光	114,000
		ビジネス兼観光	106,617

※ 「観光消費額単価」は、道内13の観光地点で実施したパラメータ調査により得られたサンプルを圏域別の観光客数で加重平均して得たものです。

なお、外国人の「観光」については第1四半期は11サンプル、第2四半期は6サンプル、第3四半期は8サンプル、第4四半期は10サンプルから求めた数値ですが、「ビジネス兼観光」はサンプルが得られていないため、参考に観光庁から提供された単価を掲載しています。

北海道観光入込客数調査報告書 [平成22年度]

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kz/kkd/irikomi.htm>

平成23年11月

北海道経済部観光局連携推進グループ

札幌市中央区北3条西6丁目

電話番号（代表）011-231-4111 内線 26-564

（直通）011-204-5303

FAX番号（直通）011-232-4120
